

# 廃棄物処理 脱炭素化提案



廃棄物に新しい命を  
NDKグループ

# Solution Introduction

# 廃棄物処理の脱炭素化提案

プライム市場上場企業を中心に、サプライチェーン全体（Scope3）でのCO2削減要請が加速する中、脱炭素への取組みは、もはや「企業の社会的責任（CSR）」ではなく、企業存続の上で重要な要素となっています。脱炭素の中心的要素はScope1,2（自社でコントロールできる排出）とScope3Cat1,11ですが、廃棄物処理に関する部分（Scope3Cat5）についてもご相談をいただくことも増えてきました。

NDKグループはSBT認定を取得しており、知識を持ったうえで皆様の脱炭素化を支援します。

## 《このような課題をお持ちの方》

- ☐ 取引先から、廃棄物処理に伴う「CO2排出量」の算定・報告を求められている
- ☐ 現在の委託業者にCO2排出データを求めても、「算出できない」と断られてしまう
- ☐ 環境省の原単位を使った概算しか出せず、自社の削減努力が数値に反映されない
- ☐ 現状の処理方法が環境負荷の高いものであると認識しているが、代替案がない
- ☐ 「リサイクル率」は追っているが、「CO2削減量」としては数値化できていない
- ☐ イニシアチブ対応に向けた具体的な「Scope3（カテゴリ5）」の削減根拠が欲しい
- ☐ コスト削減と脱炭素化の両立が難しく、社内の合意形成が進まない 等々



# NDKグループの 廃棄物処理の脱炭素化提案のご紹介

「廃棄物を運ぶ会社」から「環境価値を生むパートナー」へ。  
「算定」「削減」「オフセット」の3段階で、皆様の脱炭素を支援します。

## ①GHG排出量算定・一次データ化

排出原単位、および、当社のGHG排出量を踏まえた一次データを用いて貴社の廃棄物処理におけるGHGを算定します。

## ②処理方法変更によるGHG削減提案

環境負荷の少ない処理方法を用いることで、GHG排出量を削減することが可能となります。貴社の廃棄物状況を踏まえご提案します。

## ③オフセット提案

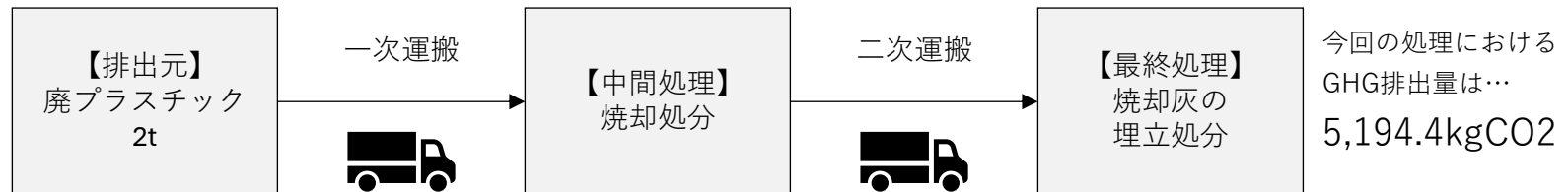
致し方なく発生してしまうGHG排出量について、カーボンクレジットによるオフセットのご提案をします。



# 脱炭素化提案の事例

今まで単純焼却されていた廃プラスチックについて固形燃料化することによるGHG排出量の削減に関するご提案

従来



原単位使用  
排出係数：47.2kgCO<sub>2</sub>/t  
GHG排出量：94.4kgCO<sub>2</sub>

原単位使用  
排出係数：2,550kgCO<sub>2</sub>/t  
GHG排出量：5,100kgCO<sub>2</sub>

一次データ化

処理方法変更

実データ資料  
距離：137km  
使用車両：大型車  
燃費：3 km/L  
係数：0.107kgCO<sub>2</sub>/km  
GHG排出量：14.7kgCO<sub>2</sub>

原単位使用  
排出係数：704kgCO<sub>2</sub>/t  
GHG排出量：1,408kgCO<sub>2</sub>

実データ資料  
距離：10km  
使用車両：大型車  
燃費：3 km/L  
係数：0.107kgCO<sub>2</sub>/km  
GHG排出量：1.07kgCO<sub>2</sub>

原単位使用  
排出係数：1,620kgCO<sub>2</sub>/t  
GHG排出量：3,240kgCO<sub>2</sub>  
※石炭代替より

今回の処理における  
GHG排出量は…

1,422.7kgCO<sub>2</sub>

固形燃料の燃焼までを  
含める場合は  
4,663,8kgCO<sub>2</sub>

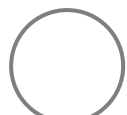
森林系のカーボנקレジットで  
1422kgCO<sub>2</sub>をオフセットする

オフセット提案

ご提案



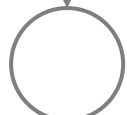
# ご相談の流れ



## お問い合わせ・現状データの共有

廃棄物の種類、排出量、現在の処理委託先などの情報を共有いただきます。

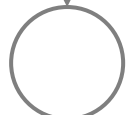
現状のデータが揃っていない場合でも、ヒアリングベースでの概算診断からスタート可能です。



## CO2排出量算定・削減シミュレーション

GHGプロトコルや環境省ガイドラインを用い、現状の処理フローにおけるGHG排出量を算定します。

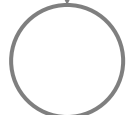
リサイクル転換や輸送効率化によって、どれだけ削減効果が見込めるかを数値で試算します。



## ご契約・新スキーム運用開始

新たな処理委託契約を締結し、運用を開始します。

リサイクル工場の選定から、J-クレジットの調達・無効化手続きまで、弊社が支援します。



## 削減レポート・証明書発行

定期的に処理実績を集計し、CO2削減効果を記載したレポートを発行します。

外部公開にむけた、サポートをさせていただきます。

# NDKグループの取組み



## SBT認定取得

NDKグループは、科学的根拠に基づいた温室効果ガスの将来的な排出削減目標を設定し、国際的な共同イニシアティブである「Science Based Targets initiative (SBTi)」による中小企業SBTの認証を2025年6月にグループ全社で取得しました。

\* NDKグループ：日本ダスト(株)、(株)サンケイ、三誠企業(株)、(株)アールビジネス、(株)リサイクル、未松商事(有)、NDKビジネスマネジメント(株)



## かわさきSDGs大賞2025にて優勝賞を受賞

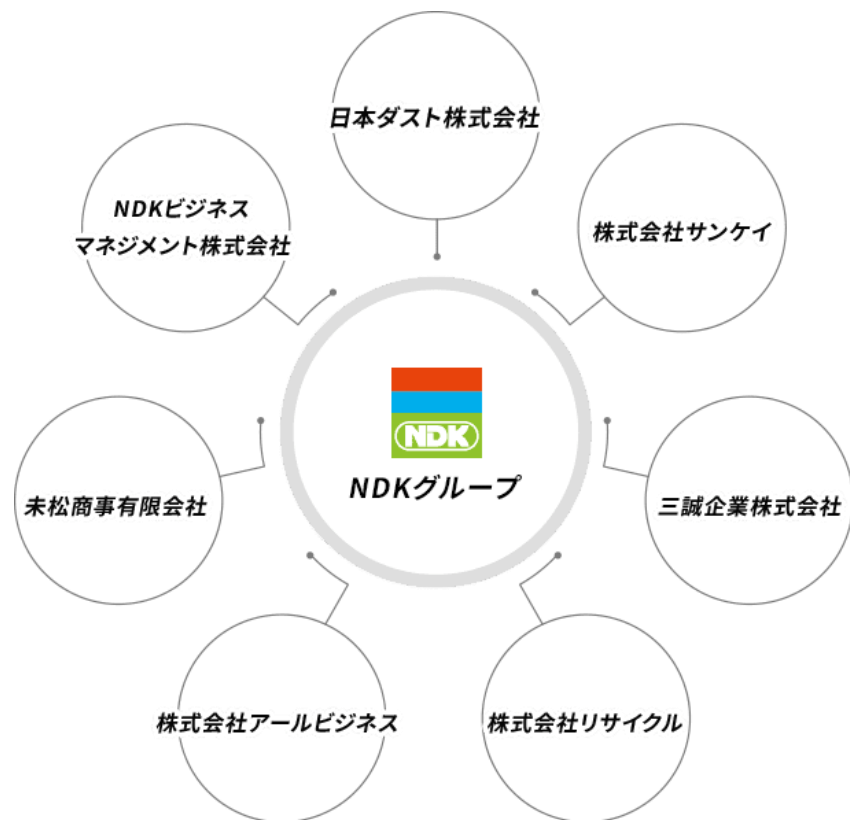
ー【経営部門 優秀賞】 日本ダスト株式会社

「NDKコンテナシステム」によるCO<sub>2</sub>排出量削減を可能にするリサイクルルート処理

- 工場に搬入された混合廃棄物を種類ごとに選別し、破碎または圧縮梱包を行うことで、本来焼却や埋立処理されていた廃棄物も処理することが可能となり、リサイクル率の向上とCO<sub>2</sub>排出量の低減に貢献している。
- リサイクルルートでの処理により、他社が単純焼却処理を行う場合と比較して、白石工場では約27%、夜光工場では約28%のCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しており、環境負荷の軽減に寄与している。
- 廃棄物は多様な場所・業種から発生することを踏まえ、自社処理と協力会社による処理を組み合わせることで、ほぼすべての廃棄物に対応可能な体制を構築しており、柔軟なリサイクル処理の提案を通じて同業他社とも連携し、環境保全に貢献している。

# リサイクル・廃棄物処理のプロフェッショナル NDKグループ

グループ会社の特色が合わさった総合力。“なんでもできる”こそ、NDKグループの強みです。



NDKビジネスマネジメント株式会社  
・グループ会社管理

日本ダスト株式会社  
・産業廃棄物収集運搬、処理全般 ・ 川崎市一般廃棄物

株式会社サンケイ  
・バキュームダンパーによる収集運搬 ・ 各種清掃工事

三誠企業株式会社  
・横浜市一般廃棄物 ・ 古紙、ダンボールの再生

株式会社リサイクル  
・建設系廃棄物収集運搬

株式会社アールビジネス  
・金属スクラップ、プラスチックリサイクル

未松商事株式会社  
・建設系廃棄物収集運搬、及び、積替え保管



廃棄物に新しい命を  
NDKグループ

総合窓口 日本ダスト株式会社  
TEL：044-333-9458 平日9:00-18:00

当社ホームページ  
<https://ndk-solution.jp/>  
右記QRコードよりアクセス

